



さる7月11日、「涸沼ラムサール条約登録記念シンポジウム」で柳生博さんと一緒にトークショーを行い、なんとか成功裏に終わったのでほっとしているところです。

涸沼環境学習会（夜の昆虫観察）

茨城県主催の涸沼環境学習会の一環として、先月8月1日に涸沼自然公園の高台にある「太陽の広場」でライトトラップに集まる虫の観察会を実施しました。予想より多くの昆虫が集まり、さらには国蝶のオオムラサキの雄まで飛来し、皆さん大喜びでした。バサバサと大型のスズメガが4種類も飛来しましたが、その中に実は珍しい蛾が見つかりました。

里山に育む生きものたち

41 クロメンガタスズメ (チョウ目 スズメガ科)

学名 *Acherontia lachesis*
(Fabricius, 1798)

文・写真／小菅 次男

人の顔を持った蛾

背中に人の顔のような模様があるので「人面蛾」または「ドクロ蛾」とも呼ばれるクロメンガタスズメです。前翅を広げると10cmを超える大型で、後翅と腹部の黄色が目立つ蛾です。

元から茨城県に住んでいるメンガタスズメに似ていますが、本種は後翅の黒条が発達する事、腹部背面の藍色ラインの幅が広くなることなどで区別が出来ます。

ついに来ていたか！

元々は南方系の種で、九州以南の沖縄や東南アジアに分布する蛾でしたが、温暖化の影響で分布が北上し、近年になって関東北部でも定着が確認され、

茨城県では初確認です。

年1回の発生で日本では4月から11月ごろに成虫が出現します。捕まえると腹部で「キイキイ」と鳴くのでびっくりさせられます。幼虫も刺激を受けると顎をすり合わせて鳴きます。

成虫は巨大でよく灯火に飛んできます。また、蜂蜜泥棒として知られ、ミツバチの巣の中に侵入して蜜を吸い養蜂家から嫌われています。

幼虫は巨大なイモムシ

3年前に妻の実家の城里町で、畑のトマトに10cmほどのイモムシを見つけました。すぐにスズメガの幼虫とは分かりましたが、調べてみるとなんと茨城県にはいないはずのスズメガの一種「クロメンガタスズメ」の幼虫でした。幼虫はゴマ、ナス、トマト、ジャガイモなどの野菜類に被害を与えます。

昔、「いもむしごろごろ」と口ずさんだのを思い出します。スズメガの幼虫は典型的なイモムシ型で、腹部の後ろに突起（尾角）があるのが特徴です。

イモムシとは元来、サトイモやサツマイモの葉に付くスズメガの幼虫をさした語でした。

編集・発行 / 茨城県総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748
ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成27年7月末現在)
◆総人口 33,731人 (-11)、男 16,867人 (-17)、女 16,864人 (+6) ◆世帯数 12,791世帯 (-11)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています